

令和4年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和5年2月9日（木）10：00から11：15まで
場 所	蒲郡市役所 304会議室
出席者	（委員）16名出席 ※別紙出席者名簿のとおり （事務局）子育て支援課：次長、主幹、主幹、係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・資料1 小規模保育事業の認可に伴う意見について ・資料2 特定教育・保育施設の令和5年度利用定員について ・資料3 令和5年度蒲郡市子ども・子育て会議の日程（案） ・コンシェルジュだより

議事：（進行）事務局 高橋晃健康福祉部子育て支援課長

- 蒲郡商工会議所 山下委員 欠席
- 学校教育課長 欠席
- 資料の確認

1 あいさつ

（渡辺会長） 改めまして皆様こんにちは。立春も過ぎて少し穏やかな日が続いてるなって思ってたんですが、ところによっては明日大雪が降るなんていうところもあって、ずっと心配しています。まだまだ春は遠いんだなって思っています。それからコロナ感染症も5月には五類になるということで、保育園の先生方も少しほっとしてみえるのかなって思っています。前回の会議から保育園の登園バスの問題とか、保育士さんの質の問題とか色々心配なこともありましたけれど、今は異次元の少子化対策、ここが大きな話題になっていったらどうなるのかなってちょっと興味を持っています。蒲郡ではうれしい話題として今日の議題にもありますけど、小規模施設の事業が始まる、むつみの丘というところが始まるといううれしいニュースがあります。今日の議題にもなっていますので、皆様のたくさんのご意見を出していただいて、よりよいサービスにつなげていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。まず議題1小規模保育事業の認可に伴う意見についてお願いいたします。

2 議題

（1）小規模保育事業の認可に伴う意見について

- 資料1 小規模保育事業の認可に伴う意見について事務局柴田から説明

質疑応答

（石黒委員） すみません、健康推進課の石黒です。一つ質問させてください。この職員の方というか保育士さんの数とか、どういった職員体制でやるかっていうことでもし分かっていたら教えていただけますでしょうか。

(事務局柴田) まず法的な部分で言いまして、それ以上を職員配置するというのを聞いております。法的には0歳児クラスが子ども3人に対して保育士が1人、1～2歳児クラスは子ども6人に対して保育士が1人、もう1人この施設全体で保育士が1人必要ということですので。それ以上を確保すると聞いております。以上です。

(渡辺会長) よろしいでしょうか。

(石黒委員) ありがとうございました。

(渡辺会長) 全体でいうと何人いるでしょうか。

(事務局高橋) まず小規模保育事業にはABCっていうふうに型がありまして、Aが一番保育士の配置が手厚くなっておりまして、基本的にA型っていうのはこのむつみの丘もA型ですけども、A型につきましてはいわゆる保育園と同じ基準で保育士の配置をするという形になっております。あと、保育室の面積などもいわゆる保育園と同じ要件がございます。

(事務局柴田) 人数がですので、0歳児が1名ですので保育士は5人ですかね。プラス1の人を含めて5人は配置するかと思います。以上です。

(渡辺会長) じゃあ、保育士さん5人に対して定員19名の規模っていうことですか。

(事務局柴田) はい。

(渡辺会長) はい。その他、何かありますでしょうか。

いいですかね。変な質問なんですけど、0歳のお子さんが預けられているということは床暖房とかもされるんですけどか。

(事務局柴田) 図面では床暖房まではちょっと見てとれませんが、ちょっとそこはまた調べてお答えします。

(渡辺会長) 何かありますか。

(山本委員) がまごおり・こども発達相談室ふれあいの山本です。よろしく申し上げます。定員が0歳児6人、1歳児6人、2歳児7人で19名というふうなんですけど、それと実際の募集がある現在の人数は多かったり少なかったりするんですけども、それがそのまま受け入れが可能ということになりますか。

(事務局柴田) そうことです。

(山本委員) もう一点、その他のところの併設施設で児童発達支援事業放課後等デイサービス、いわゆる発達障害のあるお子さんの対応をする事業所をやっていただけるということで、蒲郡市内に増えてはきているもののまだ数が少し足りないなと思うところがあり、大変これは心強く嬉しいことだなと思っています。こちらの方の開所日とかがもし分かれば、お知らせいただければと思います。

(事務局柴田) 開所日はですね、むつみの丘と同様に、こちらは名前がですね、希望の丘蒲郡という名前になります。令和5年の4月1日から開所予定です。

(事務局高橋) 開所は、当初4月開始予定ですけど、1ヶ月ほど遅れるっていうような話を今は聞いております。むつみの丘の方は4月からです。

(渡辺会長) その他はよろしいでしょうか。

(事務局高橋) 意見とかそういうことじゃないんですけど、ここ塩津北保育園がもともとあったところで、地元の方の思いも強い地区で、場所でありまして、保育園がなくなって子どもの声が

聞けなくなるのは寂しいなという思いがあった中で、地元の人としては子育て施設をと
いうところで、この敷地の一部を売却して民間の小規模保育を誘致することができまし
た。同じ敷地にですね、隣接して児童遊園地を今、作っているんです。この児童遊園地っ
てというのが、市が作ってるものなんですけど、もともとこの地域にあった児童遊園地、非
常にこう、人目につかない寂しい遊園地があったんですけど、それを移設して通りからも
よく見えるような場所での子どもの遊び場として、こちらも整備をするようにいたしま
した。あと、この敷地のすぐ北に運動広場ですね。竹谷町奥林地区運動広場、ここでは、
お年寄りなんかグランドゴルフをされているということで、この地域の中で、このエリ
アがすごく子どももお年寄りも集う、そんな場所として整備できたんじゃないかなとい
うふうに思っています。いろんな交流だと、そういったものもこれから生まれてくるんじ
ゃないかなというふうに期待しております。

(事務局柴田) ちょっと1点補足よろしいですか。こちらの会議で意見をお聞きしまして、市が認可し
ましたら、むつみの丘というのが開所されるんですが、それで内覧会というのがありまし
て、令和5年3月11日の土曜日ですね。午前10時から正午まで、自由に入ることができます
ので皆さんもよろしければ、見学させていただくといいのかなと思います。以上で
す。日時もう一度言いましょかね。3月11日の土曜日、午前10時から正午までです。

(渡辺会長) 今の次長さんからの地元の声の子どもの声が聞こえないのが寂しいって言われて作る
ことができたっていうのがちょっと嬉しくて、ほんのちょっとの声で公園が閉鎖され
たっていうようなこともあったので、何ていいことだって感激しちゃいました。それから
内覧会もあるっていうことで、また皆さんお出かけください。1つだけ、これは保育園と
いいますか、保育所といいますか。

(事務局柴田) 小規模保育事業所といえます。

(渡辺会長) 鈴木優子先生何かありますでしょうか。

(鈴木委員) おはようございます。特にはないですけど、最初に会長さんおっしゃってくださっ
たように、保育の質っていうのが本当に問題になっていて、さっき人数の話も出ましたけれ
ども、私どもも今いろいろ悩んでというか、問題視しているところはその1~2歳が、3歳、
3人と6人という人数を課してる。これも50年変えてないんですね日本は。先進国の中
で最も低い。低いというのは、たくさんの子どもの1人の保育士が見るといって、そのは
っきり言って、ドベなんですよ、ほぼ先進国の中では一番たくさんの子どもの見ているとい
う状態があって、これを何とかしたい。本当に日本は50年この法律を変えていないとい
う感じなので、実際これ見ていただくと7時から7時半まで保育されていて、実際にはこ
の人数が常にいるわけではないということになってしまう。1人の人が12時間働くこ
とはないと思いますので、コアな時間に、誰がいるかなっていう、3人がいるかもしれな
いけども前後は1人ずつなのか、それまた例えばパートさんは頼むのかっていう問題が、
あまり明確じゃないところがあってここだけではありません。この施設だけではなくて
すべてにおいてこの問題は、とても深刻だと思っています。例えば、横浜とか京都市な
んかは独自にプラス1を課しているんですけど、他はなかなか、そもそも大体そういうふ
うにしても今人が来ないっていう問題があってこの保育士が集められるかという問題も

多分きつとあるんだろうなと思います。ちなみに例えばもう数だけで言えば、5歳までで行って、日本は、10人に大体1.7とか8とかっていう数字になるんですけども、例えばノルウェーとか、チリとかはもう10人の子どもに対して平均が4.7とかっていう数字で、もう圧倒的に負担感が高い。それが保育の質を下げているのではなくこの間のような事故みたいなものが、やっぱり起こる要因にはなってるかなと思います。ですから、この人数の保育士さんがちゃんと確保できるのかなっていうことも見守って差し上げないと結局はそこ本当にこの額面通りの数字だったらできないと思うんですね、12時間働く人をつくらなきゃいけないということになってしまいますので、それも全国的に問題かな。これが蒲郡のこの施設に限った問題ではありませんけども、いろんな意味で危惧することがたくさんあります。異次元のサービスは、選挙権のある大人にしか発信していないので、子どもに落ちてくるような何か対策が、やっぱり必要かなって言うふうでとてもいいことだと思いますけれども、みんなで見守っていく、こういうところから質が上がるような発信をしていきたいなっていうふうには、思います。すいません長くなりました。

(渡辺会長) ありがとうございます。手放して喜べないところもあるっていうことで、市役所のエレベーターに乗ると中に保育士の募集のポスター貼ってあるので、そうなんだなってちょっと思いながらも、潜在の保育士さんの数がすごく6割ぐらいあるって、ちょっと前の日経新聞にも出てたので、そういう方たちも掘り起こしていくようなことがあったらいいなと思ってますので、よろしくお願ひいたします。他にはどうでしょうか。はい。じゃあこれで、第1の議題を適切に進めていただくようお願いいたします。

(2) 特定教育・保育施設の令和5年度の利用定員について

●資料2 特定教育・保育施設の令和5年度の利用定員について事務局倉橋から説明

(3) 令和5年度蒲郡子ども・子育て会議の日程

●資料3 令和5年度蒲郡子ども・子育て会議の日程について事務局倉橋から説明

質疑応答

(渡辺会長) この5月15日の第1回目の時の第3期蒲郡市子ども・子育て支援事業計画の策定計画っていうのは、令和7年度から実施されるものについての計画で、準備段階として令和5年度から、やっているわけですので、この際、委員の皆様がたくさんいろんな意見をいただきたいなと思っているところですね。

(事務局高橋) 今、第2期子ども・子育ての計画が実施中で、これが5年間の計画なんですけれども、令和6年度末までの計画になりまして、令和7年度からですね、第3期になっていきますので、令和5年度、令和6年度と、2年でその中身を検討してという形になりますけれども、まず令和5年度はいろいろな意見聴取、アンケート、そういった基礎資料を令和5年度の中では集めようかというふうに考えております。

(渡辺会長) この日程で、大体、裕子先生の日程の加減で木曜日の10時ぐらいっていうのが大体の押さえとして、良いですかね。

(事務局倉橋) もし、他の委員の皆さんも差し支えないようでしたら、今年度と同じ、大体木曜日の同

じ週あたりで、10時からの設定とさせていただきたいと思っています。また、新年度となりますので、議員の皆様の中で交代される方もお見えになると思うんですけども、日程については改めてこちらから通知させていただきますが、お伝えする機会があるようでしたら、第1回目の開催を5月25日ということをお伝えしていただくと助かります。よろしくをお願いします。

(渡辺会長) それでは来年度の日程につきまして、よろしくお願いいたします。

(4) その他

(石黒委員) すいません健康推進課の石黒です。ちょっと会議との内容とはちょっとずれてしまうかもしれないんですけど、健康推進課の方からちょっと情報提供をさせていただきたいなと思って発言させていただきます。ご承知かと思うんですけども、国の方から出産・子育て応援交付金というものが発令、通知の方がありまして、蒲郡でも令和5年1月1日から実施ということで、遡及者を含めると令和4年4月1日からの妊娠・出産される方へ、出生届とそれから妊娠届を出される時に5万円ずつの現金給付と妊娠8ヶ月のときの面談ということで、そういった経済的支援を伴走型支援につなげながら、しっかりと切れ目なく子育て支援していこうという、そういった事業の方を今させていただいております。実際もうすでに申請に来られた方もお見えになりまして、ちょっと事務的にはバタバタしてるところはあるんですけども、今後ただ現金や物を配るということではなくって、しっかりそこから皆さんの悩みだったりとかこれから子育てしていく上の、見通しを私達と一緒に立てさせていただいて、さらに健康推進課だけではなくって、子育てのサービスにしっかりつなげていったり、保育園の先生達とも連携させていただいて、見守っていききたいなというふうに思っています。0～2歳までということにはなるんですけども、それ以降も保育園の方々と連携とっていききたいと思ってますので、よろしくお願ひしたいなというふうに思っています。またそういった方がおりましたら、情報共有させていただきたいと思います。

それと昨年の10月頃にですね、ベビーファースト運動ということで、実は日本青年会議所というところが先導を切って、地域でベビーファーストを進めていこうという、個人でも宣言をしていいですし、事業所でもいいですし、ご家庭でもいいですし、ということで、私はお子さんのためにとか家族にこういった宣言をしますっていう運動を、蒲郡市とそれから商工会議所の青年部と、青年会議所、この三者で連携をとって、うちの市長も蒲郡市長も宣言をしているんですけども、この宣言誰でもしていいということですので、例えば保育園さんで、ベビーファースト運動でこういう宣言をしますとか、子育て支援課でしますみたいな、そういったことで広がってくるといいなというふうに思っておりますので、またご協力いただけるとありがたいです。

それと、最後にごめんなさい。たくさん言ちゃって申し訳ないんですけど、実は特定不妊治療と不妊治療っていうのを、今年度からは県が廃止したということもあって、当時あまり保険診療になったこともありましてのであまり申請がないのかなというふうに思っていたんですけど、実際のところ開けてみると、本当に特定不妊治療に関しては、1回5

0万60万かかるような方がやはりお見えになるということで、あの不妊に悩む方っていうのは結構たくさんいるんだなというのは今実感しております。不妊治療は、やはり今、保険制度になったとはいえ年齢制限、回数制限などがあって、なかなか使い勝手のいいものにはなっていないということがあるので、今回蒲郡市がさせていただいて、また、悩みを持っている方も多いものですから、そういったところからの不妊の皆様のご相談に乗れていけるといいなというふうに、思っておりますので、こんな事業も進めております。

また先ほど子ども・子育て計画のことをおっしゃられたと思うんですけど、実は、健康推進課の健康を守る21第2次計画というのも令和6年までの計画で、令和7年から新しくなります。この計画の中には、以前は母子保健計画という計画があったのですが、今その母子保健計画は、こちらの子ども・子育て支援事業計画の方に盛り込ませていただくということで母子保健に関する計画の内容というのが、ちょっと健康推進課の健康がまごおり21の中でも、薄い状況になってしまっておりまして、例えばこういった不妊治療から切れ目なく子育てにつなげていくっていうところも、今回の切り替える時の子ども・子育て支援事業計画の方に少し盛り込んでいただけるのか、もしくは、健康推進課の方の健康がまごおり21第2次計画に含めていくのか、国が子ども家庭センター、子ども家庭庁というところで、母子保健と福祉をつなげていくっていうところも、言われている中ですので、こういったこともまた次年度以降ちょっと、情報交換させていただきながら、計画のあり方とか、役割を整理していきたいというふうにちょっと考えておりますので、またご指導よろしくをお願いします。すいません長くなりましたが以上です

(渡辺会長) ありがとうございます。やっぱり子ども家庭庁もできることで、やっぱりいろんなところで連携して、子どもさんたちへのサービスとか、それから、仕組み作りみたいなところからやっていくことが、少子化対策のほんの少しかもしれないけど、繋がっていくといいなと思っています。それでまた連携についてはまた事務局さんの方でよろしくお願いいたします。その他ありますでしょうか。

(伊藤委員) 小さい子の話とか出たりとかして、国の子育て支援とかいろんな話が出てますけど、現場として本当に深刻なのが保育士不足。公立も今年すごい大変だってお話を聞くので、公立が大変ってことはもう、うちなんて絶対来ないぐらいな状況なんです。働き方改革であったり、先生たちが働きやすい用に、代が変わって3年目ですけど、ものすごくいろんなことをやって、改革は私どもしてきたんですけど、それで学生さんも大分増えてくれて、ここ3年ぐらいはよかったんですけど、本当にこの先どうなのかなっていうぐらい大変で、やっぱり、賃金ですよ。どうしても、そこをぜひともご協力していただきたいなっていうふうに思います。最低賃金これ以上出さないというふうに、市から指導されれば、指導していただければ私らはもう、そのようにちゃんと従いますし、正直、ここ最近でバスの問題とか虐待の相談とか出てきて、今年も実はもうそれで、そういうことがあって、ちょっとこの先不安になるって言って辞めたいって言ってきた先生もいるんです。何とか引き止めてやってくれることになりましたけど、結局一部のそういうところでマスコミが大々的に、どこもそんなことやってんじゃないかみたいな放送するのもあるので、

そうすると一生懸命やってる先生達にしたら、もうちょっとやられてないっていうふうにもなるので、先ほど渡辺先生から潜在保育士が6割いらっしゃるって言っても、結局やらないってことは、リスクを負いたくないんですよ。そのリスクに見合うだけの賃金をもらえないっていうところがあるので、そういうのでも、ちょっとね、支援課の方と少し話したことありますけども、他の市では、先を見据えて、ものすごく待遇を厚くしてる市もあります。具体的には西尾市さんなんかは、私立の幼稚園でも採用の時に、もう行政から幼稚園を通じて50万です。採用する時点でその学生さんに。そういうことをしてまで保育士を確保しようとしていってるんです。他の市がそういうことをやっているってことはもう、学生さんって情報早いので皆知ってますから、だから蒲郡市なんかで勤めるよりも、30分で行けますから、西尾に行っちゃおうという話になっちゃうので、そういうことももうちょっとこう、私立でもできることできないことっていうのがあるので、行政のお力をお借りして、助けていただくしか今後、子どもが増えても、そういう教育体制が整ってなければ、子育ても充実しないんですね。そういう意味では市会議員の方もいらっしゃいますので、是非ともその辺に目を向けていただいて、他の市に参考になることもあると思います。例えば、ものすごく子どもが増えてるのは長久手市とかですよ。子育てしやすい町っていうふうに、子どもファースト子育ての、子育て支援のためっていうふうに、方針を決めていけば具体的にどうしていくかっていうところをですね、一緒に動いていただくとこちらはやりやすくなるというか、5年10年先を見据えて、子育てっていうものが、本当に蒲郡市でやりやすくなる、ましになっていくのかなというふうに思いますので、ぜひとも助けていただきたいなというふうに思います。もうそれはもう、みどり保育園さんも子育て支援課も一緒だと思いますのでよろしくお願いします。

(渡辺会長) 切実な声を聞いて、学校の先生の教師不足もかなり深刻なんですけど、保育士さんも本当に同じようにそうですよね。

(伊藤委員) 学校は正直、例えば部活がなくなったりとか、改革ある程度その、これをじゃあなしにすればいいっていう、改革できてるじゃないですか。正直、保育の現場って、大変になってく一方というか、あれもこれもっていうふうに求められることが増えていくので、働くお母さんを応援しようっていう空気もありますし、だからそういう意味で、だったら賃金を高くするとか、そういう面で折り合いをつけて、これなら多少リスク背負っても頑張れるっていうふうに、ものがないと、何かを省くってことは正直難しいので、はい、お願いします。

(渡辺会長) 河合先生、何かありますか。

(河合委員) もう本当におっしゃる通りで、痛感してます。特に最近の虐待の問題ですね。耳を塞ぎたくないような報道の仕方をされていて、最もショックを受けたのは保育士だと思います。現場でああいうことが実際にあるのか、じゃあ私たちのこの行動、言葉がどういうふうに捉えられるとああいうふうに虐待っていうふうに結びつけられるのであるだろうか。どこに何がありますか、私たちを守ってくれるのはどこですかっていう意味で盛んに各園虐待について学び、私達の保育を振り返り、一生懸命にどこの園もやられてると思うんです。ただ、やっぱり繰り返してやっていくと、こういうことが私たちが気がつかないと

ころで、第三者が切り取りで見られた時そういうふう映っちゃうんだねっていうところも明確もなりつつ、一方、自信を失っていく。どんどん、何か子ども達に素直な気持ちで、言葉掛けができなくなったり、それから、明るくて元気で楽しくてっていうプラスの部分は全く問題ないんですが、子ども達と生活するっていうのは時には注意を払わなきゃいけない。危険を避けなければならない。そのときには大きな声で、「待って」って、言うこともあるでしょう。でもそれを、そこだけ見られると、アウトなんだよねっていうことで、突き詰めれば突き詰める程苦しくなる。今本当に保育士さん苦しいと思います。それから、学生さんも実習等で来てくださって、どこの園も皆さんやっぱりご縁がある学生さんだって選んで来てくださっているんで、オープンにして保育士という仕事、子どもと触れ合うことの仕事の喜びとか楽しさを精一杯伝えてくださってると思うんですが、その時は一生懸命やられていて、ぜひ保育を目指します。ってなるんですが、やっぱり大学帰っていろんな情報が入ってくると、やっぱり何か自信がないっていうので、保育という職業を選ばず一般業、大学の中でもすごくその流れが大きくなってっていうことを数年前から伺ってます。そうすると本当にいい人材はたくさんいるはずなのに、待っていても絶対来ません。どう、そこをこじ開けて、やっぱり先生がおっしゃったみたいに、安心して、それからリスクもできるだけ下げて、喜びのある楽しい職場であるという、プラスやっぱりそこを評価するには、金銭的なものの処遇をきちっと保証してあげることが大事かなと思います。働きやすい、女性だけではとどまらず、男性も働きやすい環境とか、それから子どもの成長を本来は見守りながら、本当に充実のある、これ以上やりがいのない仕事は私達はないと思ってるんですけども、そこに至る前に皆さん、要求されることに怯えてしまうっていう感じを、特にここ2、3年、事件以来さらに強く感じますので、何か手を打たないと本当に、保育ができなくなるんじゃないかなと思います。

(渡辺会長) 切実な声を聞いてちょっと、やっぱり子育てとか学校の、本当に自分のこの心の支えになってく、豊かな心に繋がっていく本当に楽しい仕事だと思うんですよね。保育士さんもそうですけど、それをそうやって、いろんな声でね、自信を無くさせていくっていうのは、ちょっと悲しいなと思うし、また、園長先生方の支えと市の何か。

(河合委員) 鈴木先生がおっしゃってくださった、50年、配置基準変わっていない点なんですけどね。例えば核世帯だと2人でも、双子ちゃんでも大変よねって、保護者のことを応援する社会になってますけれども、保育士は0歳児を3人当たり前のように、見るんですね。常に三つ子をどうやってやりましょうっていう、そこに必ずプラス1はプラス2っていう保育士さんを、何ていうか、保証していかないと、とてもその安心安全を確保できない。まして、一番ギャング、1歳児なんですよ、実は。言葉も通じないし、やりたい放題。でも6人抱えるんですね。そうすると、ベテランの先生はある程度コントロールできる術を持っていますけれど、新任の先生にしてみれば、六つ子の子を1人で見れなんてことはとても、とても不可能ですよ。そうすると、やっぱりこの人数の配置、人数で、幼児も同じなんで30人。4歳も5歳も30人の子どもさんを1人の保育士が見ることになっていますけども、やはりここを配置基準を、保育士1人当たりの子どもの人数を少なくするという事は、最も早く保育の質を確保するために、また、この人数の方だったら、私

でも仕事としてやっていけるかなあというものに繋がるというのは、もうずっと思っています。

(渡辺会長) まず、定員を少なくするっていいことですかね。裕子先生に頑張っていたいただいて、50年変わらなかったのを、ぜひぜひ、変えていただきたいと思います。裕子先生、何かありますか。

(鈴木委員) もう何かこう声をどういうふうに上げていくかって、私たちも考えるんですけど、まず社会がこの事実を見守って欲しいなと思いますけど先生がおっしゃるように、何かブラックなことばかりが強調されて、なり手はなくなる。ただ辛い仕事で2007年頃からそのやりがい搾取という言葉が、東大の本田先生が言われたんですけど、保育者は、つまり子どものためなら頑張れるってみんな思ってるんですね。そこに頼って全部やりがいから、労働条件を搾取している職業だっていうふうに社会的には、教員もです。子どものためなら頑張れるとかって言ってるんだったら、いい仕事なんですよ。安い給料でもできるんですよ。大変でも頑張るんですよっていう、そういう社会構造になっちゃってるっていうことはちょっと悲しい。でも本当に、少子化対策もですけどなかなか突破口が、ないっていうか、一つやったら全部解決しないんです。でも先生おっしゃったように、一番早いのは給料かなって思っているんです。要するに社会に、保育者がやっぱり国際的な評価をすると、すごく自分の職業を認められてるという意識も日本の保育者ってすごく低いんです。社会の中で良い仕事だと思われていない。高い、能力が必要な職業だと思われていないっていうふうになっていっちゃう。だから、何かこうやっぱりそれはとても悲しいなっていうか、すごい専門性の高い仕事だと思います。年齢の低い子だけで、おっしゃるように、1歳を3人見れるってことはすごい専門性ですよ。だからなかなかそれが理解できないので何とかそういうことが理解してもらえ世の中にしたいなと思います。なかなか打つ手がというか、それと逆行してどんどん、マスコミなんか申し訳ないけども、ブラックだ、ブラックだって言っちゃうので。うん。でもまた話が長くなるんですけど、文科省がね、教師のバトンっていう、サイトを作って、教師の魅力をみんなに書き込んでもらおうっていうサイトを何年前に作ったんですよ。でもそれ炎上しちゃってるんですよ。どっちかっていうと、辛いや僕は後悔はしてないけど、二度とはやらないとか、さっきおっしゃったように、基本的に改革するっていうことはしてることと、新しくすることは、1個新しくしたら1個捨てなければ改革にならないけど、教師も保育者も、もうみんな増えるばかりで捨てない。何かコメントがありました。30年やって減ったことはぎょう虫検査と座高の調査だけです。あとは増えたことばかりです。と言って先生が書き込んだ、ではそれに対して実はこないだうちの学長が、いやあれはどういうつもりなんだ。今ヒアリングを受けたときに文科省に聞き返したら、いや、これはうちの部署じゃないって言われて、スルーされたっていう。なかなか手がないんですけども。何か世の中にこの仕事はとても意味がある仕事でっていうことがわかるような、やっぱり行政的なバックボーンが欲しいなとは思っています。すいません。長くなりましたけど、でも先生の園長先生たちの本当にご苦労がわかりました。ともに、少しずつ歩みたいなと思います。また、御声をお聞かせください。

(渡辺会長) ありがとうございます。なかなか良い話題になっていなくて、本当にメディアの放送、本当に耳を塞ぎたくないような目を瞑りたくないようなことだったけど、蒲郡にはこういうことじゃないかなっていう私の中では、支えになってる。そういうところはあるけど、そういうのは特別なところ。普通は違うっていうことは分かってるつもりですし、皆さん分かってくださっていると思うので、自信を持ってやっていただきたいなっていうふうに思っています。

それでは、何かありますか。

(事務局柴田) すいません。先ほどちょっと答弁、後ほどということの小規模保育事業所の床暖房の件なんですけど、調べさせていただきました。床暖房はつかないということです。以上です。

(渡辺会長) 子どもがハイハイしているところ、冷たい床をハイハイしているのは何かちょっとなって、カーペット敷きたくないしとか思っちゃう方ですから、すいません。余分なこと。

●コンシェルジュだよりの配布説明

(小野山委員) 福祉課長の小野山です。よろしくお願いします。講演会のご案内をさせていただきます。こちらのチラシをご覧ください。来月、3月5日日曜日、福祉まつりを3年ぶりに開催します。その中で玉木幸則さんっていう方の講演会を行います。ここにも書いてありますが、NHKのEテレのバリバラという番組に出られている方、有名な方です。市民会館大ホールで、入場無料、申し込み不要ですので、よろしくお願いいたします。

(渡辺会長) ありがとうございます。お時間がありましたらお寄りください。

(岡田委員) すいません。社会福祉協議会の岡田ですけど、渡辺先生少しお時間いただいても大丈夫ですか。すいません。今福祉課の課長さんからのご紹介がありました福祉まつりなんですけども、3年ぶりにこれで開催することができるようになりました。先ほど言いましたように共生フォーラムもあるんですけどもその他に、地域での支えの報告会ですとか、東三河ボランティア集会も合同でやりますものですから、先ほども新しく、小規模保育事業所のところで、後にグラウンドで高齢者といろいろ待合することが今後期待されるというようなことも出てたと思いますが、そういったことも地域でどのような形で子育て支援ができるのかとか、課題の方を含めて、いろんなことに取り組んでいきたいというふうに考えております。ぜひ、時間がありましたら皆さん、お誘い合わせの上、ご参加いただけたら誠にありがたいと思いますので、今回2月1日号の広報と一緒にチラシを配っておりますんでもしよろしければ、ご自宅に戻っていただいて、確認いただけたら助かります。よろしくお願いいたします。以上でございます。

(渡辺会長) ありがとうございます。それでは、これでどうでしょうか。まだ言いたくないこととかありませんか。それではありがとうございました。

以上